

## 「先生！わかりません！」



新年度が始まり、学校の様々が動き出しました。先日、生徒が校長室にやってきて・・・「先生、評議委員会（学級委員）として新しい取組を考えたいんです。校長先生の意見が聞きたいです。」とのこと。日頃から「『いい学校づくり』を一緒に考えていこう！」と言っている手前、こんな来室は大歓迎です。

「あなたは、どんなことを思い描いているの？」と聞くと、「これまでの評議委員会が『学習の雰囲気づくり』を大切にしてくられたので、引き継ぎたい。新しいこともやってみたい。」思いが伝わります。昨年実施した「『縦割り学習会』は、いい雰囲気（先輩・後輩の関わり、教え合う雰囲気）だった。続けたい。」と自分の意見も持っています。まず「いい委員会活動」を目指して、いろんな意見を得ようとする姿勢がうれしいですね。僕から提案したのは、「もし授業中に『分からない。』って場面になったとき、『。。。』言えない雰囲気はつらいよね。『分からん！教えて！』が言いやすい雰囲気があると、教え合い、支え合うクラスになると思うんだ。そんな学校の雰囲気を作りたいね！」と伝えました。

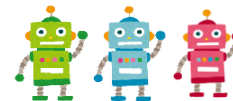
「ちょっと今の説明 よく分からなかったんですけど・・・もう一度教えてください。」って言えるようになったのは、いくつくらいでしょうか？ 大人でも、場面や場所、集まったメンバーシップによっては、声に出せないときがありますもの。もっといえば、「先生！今の説明分かりにくいです。違う説明の仕方をお願いします。」なんて言えたら、まさしく「いい授業」を一緒に作ることになるんです。「『分からない』を言うのは、はずかしい」という感情はあるでしょう。でもそれを乗り越えるだけの関係づくりがしたいですね。



## かしわもち

4月号の「三色だんご」に引き続き、5月は「かしわもち」です。葉っぱで包む食べ物は他にも「桜もち」「ちまき」「柿の葉寿司」「ほうば味噌」「笹団子」・・・なじみ深いです。ちょっと想像すればそのとおり、昔はラップ材もプラスチックトレイもあるはずなく、紙も貴重だったことから、引っ付くお餅を包むのに「広葉樹の葉っぱ」は都合がよかったのでしょう。結果的に防腐作用や乾燥防止、香りづけにもなって、季節の風物詩になったり各地の名産品になったり。では「かしわもち」と「端午の節句」が結びついたのはなぜでしょう？ 柏の葉の生態に関係があります。調べてみましょう。そういえば、昔の人々は葉っぱに限らず、自然の様子をよく観察してらっしゃる。それを人生になぞらえたり、ことわざにしたり。そんな情緒に包まれて、「かしわもち」いただきます！

## 生成AI



文部科学省から「生成AIの利活用に関するガイドライン」が示されました。「近い将来・・・」を想像しながら、職員PCの「AIさん」にいつもの『いい学校って、どんなだろうか？』と問いかけてみました。すると・・・ものの1秒！で、それこそ文部科学省のような回答がかえってくるのです。こっちも悔しいので、わざと「答えのない問いかけ」をしてみると、『難しい問題ですね。』と共感してみたり、僕のことを褒めたり励ましたりしてくれる。『誰かが入っているのか？』と錯覚するくらいの『温かみ』のある言葉に驚かされました。ドラえもんと一緒に過ごすことでのび太が成長したように、AIが『子どもの学び』をサポートする時代がくるのでしょうか。